

## 【奨励賞】

### 「自分らしく生きるには」

近江八幡市立八幡東中学校 1年 武市 舞子

「ねー、お母さん、機関車トーマスのパンツ買って。」と、四歳の私は母に言ったそうだ。母は、お店で女の子がはける機関車トーマスのキャラクターがついているパンツを探してくれたが、当時は、男の子用のものしか売っていなかった。仕方なく母は、男の子用のパンツを買って、私にはかせてくれた。その時、

保育園の先生に、男の子用のパンツをはいていることを変に思われないように、事情を説明したことがあると聞いた。普通なら、「トーマスのパンツは男の子のものしかないから、女の子ははちゃだめなんだよ。」と伝えてあきらめさせるが、私がしたいと思った事を、おかしいと思わずに認めてくれた母に感謝したい。

世の中には、色やキャラクター、かみ型や服装などのイメージで、「男らしい」とか「女らしい」と区別してしまっていることがよくある。公共のトイレに表示しているそれぞれのピクトグラムは、色と形で男性と女性を区別している。私たちは、それが普通だと思いこんで生活をしている。また、私たちの学校の女子の制服は、スカートとスラックスが選べるようになっている。入学する前は、正直スラックスを選ぶ人がいないと思っていた。しかし、入学してみると、想像以上にスラックスをはいている人が多くて驚いた。よく考えてみると、スラックスを選ぶ人が少ないと思ってしまったのは、私が性別でこれをえらぶだろうと決めつけたからである。そして、その考え方は、誰かを苦しめるかもしれないということに気付いた。思い込みで人を傷つけてしまうことがあると反省した。

さらに、最近読んだ新聞に、

『ピンクのがいい』

『わが社の経営方針を発表します』

という言葉から、連想される性別は何ですか？という問いかけの広告を見た。私は、前者は女性、後者は男性でイメージをした。ふと四歳の頃の私なら、言葉のイメージから性別を特定しなかつたらうなと思った。今の私は、日常生活の当たり前によって作りあげられた「男女」のイメージを無意識に、刷り込まれていることに気が付いた。

最近のニュースやインターネットなどでよく見かける「LGBTQ」は簡単に言うと、性的少数者のことである。女性とか男性とか、性を二つだけに特定せずに、複数の形で表現している。LGBTQについて調べていると、「身近にいないのではなくて、そのことを隠しているのかもしれない」という言葉が

とても印象に残った。私の身の回りには、LGBTQの人はいないと思っていたが、そのことを隠しているのかもしれない。周囲の目を気にして、自分の好きなものや、自分の好きな事を隠して生きている人がいるのかもしれないと思い、私の決めつけた考えや、男女を区別する仕組みは良くないと感じた。自分らしく生きるためには、好きな事や、好きなものを隠さなくてもいい社会になっていく必要があると思った。

「自分らしく」生きることのできる世界を作るには、それぞれの意見を認め合うことが大切だ。重く考えずに、私たちにできることは、「決めつけない」ということだ。また、違った意見や考え方を「バカにしない」ことで、偏見や差別をなくしていけるのではないかと思う。

「女の子らしく」とか「男の子らしく」という言葉を、最近ではあまり耳にしない。それは、〇〇だからこうでなければならない、という考え方を勝手に植え付けてしまうからだ。社会全体が、その植え付けに対して向き合っているのだと理解できる。これまでの私は、そんなことを考えたことがなかった。理由は、自分には関係がないし、他人の事だから、考えても何も変わらないだろうと思っていたからだ。「自分らしさ」とは何なのか、「自分らしく」生きていくには何を選択したらいいのか。自分の事を考えることは、他人を理解する第一歩につながると強く思う。考える人や機会が増えれば、世界中の人が自分らしく輝いて生きていける。四歳の私が、好きなものを身につけた時のように。